



成犬と仔犬

# 妊娠・授乳期の母犬と仔犬の栄養

繁殖の成功に欠かすことのできない役割を果たすのが、最適な栄養です。

発情期、妊娠期、授乳期にはそれぞれ、最適な受胎、胎児発達と出産、および最適な新生犬の生存率のために必要な固有の栄養要件と関連しています。



キーマッセージ

## 雌犬の妊娠・出産

### 交配前、発情期、および交尾期

- 最適な受胎、適正な仔犬の出生体重、死亡率の低下のためには、雌犬が交尾前に理想的な体型になっている必要があります。
- 交配直前または妊娠初期の6週間は、成長と繁殖を目的とするフード（仔犬用）に切り替えます。こうすることで、これからの妊娠や授乳に備えて高エネルギー・高栄養の食餌に雌犬を慣れさせることができます。フードを切り替える際は、消化不良を防ぐために7日間かけて徐々に新しい食餌を導入するようにします。
- 妊娠からおおよそ3~4週間は、食餌を切り替えないようにします。これは、多くの雌犬で「つわり」が生じ、食物摂取量が減ることがあるためです。この時期に食餌を切り替えると、新しいフードを拒否することにつながる可能性があります。
- 妊娠初期におけるカロリーの過剰摂取を防ぐには、摂食量の管理がきわめて重要です。

ご存じでしたか？

授乳期は、ライフステージの中で栄養が最も必要な時期であり、成長期よりも高い栄養要件を満たさなければなりません。






(次のページに続く)

## キーメッセージ (続き)

### 妊娠期

- 9週間の犬の妊娠期間のうち、第6週以降は摂食量を増やします。
  - 妊娠期間の最初の5週間は、雌犬のエネルギー必要量は維持期と同様です。
  - 交配時に雌犬がやせ過ぎにならない限り、妊娠第5週に達する前に食餌の量を増やすことは推奨されません。

### 妊娠中の雌犬のエネルギー必要量




 1~5週	維持期の成犬の必要量と同じ
 6週	維持期の必要量 + 10%
 7週	6週 + 10%
 8週	7週 + 10%
 9週	8週 + 10%

- 妊娠期最後の3~4週間になると、雌犬のエネルギーと他の栄養素の必要量が増加します。
  - 犬の胎児は、妊娠期最後の3~4週間で急速に成長します。
  - 雌犬のエネルギー必要量は、仔犬のサイズに応じて、25~50%増加します。
  - 食物に含まれるDHA(ドコサヘキサエン酸)、つまりオメガ3脂肪酸は、子宮内と分娩後の両方で仔犬の神経系および視力の健全な発達を助けます。
  - 栄養的に完全でバランスのとれた高品質の仔犬用フードを与えることで、必要なすべての栄養素が供給されるため、補助食は必要ありません。
- 妊娠期最後の3~4週間は、1日何回かに分けて給餌するか、母犬が自由に食べられる給餌方法にします。こうすることで、食餌や消化のための腹部の空間が狭くなってきても、母犬は十分に栄養を摂取できます。

### 授乳期

- 授乳期は、ライフステージの中で栄養が最も必要な時期と考えられており、成長期よりも高い栄養要件を満たさなければなりません。

### 授乳中の犬のエネルギー必要量

 1~2週	維持期の成犬の必要量 x 2
 3~4週	維持期の成犬の必要量 x 3
 5~6週	維持期の成犬の必要量 x 2

- 授乳中の犬は、産乳要求量に対応し、母犬自身の体型を維持するために、消化しやすく、エネルギー量の高い栄養豊富な食餌(仔犬用フードなど)が必要です。
  - 産乳のピークは、出産後3~4週間です。
  - エネルギー必要量は徐々に増えていき、交配前の維持レベルの2~4倍にまで達します。
  - 出産後3~4週間は、1日に何回かに分けて給餌するか、母犬が自由に食べられる給餌方法にすると、授乳期のエネルギー要求量を満たすのに役立ちます。
  - 仔犬が固形食を食べようになると、産乳は減り始めます。

(次のページに続く)

## キーメッセージ (続き)

### 離乳期および離乳期後

- 離乳の1~2日前に母犬の給餌量を制限すると、産乳量の減少に役立つことがあります。
- 離乳前日に、母犬と子犬を分離します。産乳量をゆっくりと減らすために、母犬には新鮮な水のみを引き続き与え、給餌を一切停止します。
  - 仔犬が食べ始めたら、その晩から母犬と子犬をもう一度一緒にします。母犬の産乳をさらに減らすために断食を一晚続け、朝になったら仔犬に固形食を食べるように促します。
- 離乳当日は、母犬と子犬を1日中分離します。
  - 離乳当日には、交配前に与えていた種類のフードの約25%量を母犬に給餌します。
  - その後3日間かけて、母犬への給餌量が交配前の維持レベルの100%に達するまで、徐々に給餌量を増やしていきます。

### 仔犬

#### 授乳期の仔犬

- 生後およそ3~4週間は、母犬の乳のみで仔犬の正常な成長を十分支えることができます。
- 生後およそ3週間で、仔犬は半固形食（ドライフードとぬるま湯を1:2の割合で混ぜたかゆ状の食餌）を開始できます。これには、母犬に与えているものと同じフードを使用します。
  - 仔犬に半固形食を早期に与えることで、母犬への栄養的な負担を減らし、仔犬の離乳によるストレスを軽減します。
- 生後5~6週間が経過したら、フードと水の比率を2:1にする必要があります。

#### 離乳期の仔犬

- 仔犬が生後5~6週間になると、自然に離乳が始まります。
  - 母犬の乳だけでは、仔犬が急速に成長にするために必要な適正レベルのエネルギー量と栄養素を十分に供給できなくなります。
- 生後5週間までに、仔犬には半固形食を与える必要があります。
- 生後6~8週間で仔犬の離乳準備が整うまで、半固形食の相対量を徐々に増やしていきます。
- この期間中は仔犬に同じ食餌を与え、仔犬が消化不良を起こさないようにします。
- 離乳が完了したら、仔犬の身体のサイズに合わせて適切な食餌に切り替えます。

#### その他のリソース

Case, L. P., Daristotle, L., Hayek, M. G., & Raasch, M. F. (2011). *Canine and Feline Nutrition: A Resource for Companion Animal Professionals* (3rd ed.). Mosby Elsevier.

Debraekeleer, J., Gross, K. L., & Zicker, S. C. (2010). Feeding reproducing dogs. In M. S. Hand, C. D. Thatcher, R. L. Remillard, P. Roudebush, & B. J. Novotny (Eds.), *Small Animal Clinical Nutrition* (5th ed., pp. 281-294). Mark Morris Institute.

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。